

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
3	木下俊行 廣田憲一 山下詩織 一柳直貴	数学Ⅱ (数研出版)
○必修 学校必修 必修選択 自由選択		4STEP数学Ⅱ+B (数研出版) チャート式基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)

## ◆学習の目標

- ・数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高める。
- ・1年次に引き続き、効率的で正確な計算力のアップに努める。
- ・問題集・参考書等を用いて応用力の強化に努める。センター試験で8割以上の得点を目指し、入試問題にも対応できる力を養う。

## ◆主な学習内容・方法

- (1) 1 図形と方程式    2 指数関数と対数関数    3 微分法と積分法  
4 複素数平面
- (2) 発展・標準の習熟度別にクラスを編成する。クラスは学期毎に変えていく。
- (3) 発展・標準ともに進度は同じである。発展クラスはさらに、入試問題にも積極的に取り組ませる。標準クラスはセンターレベルの基本事項の完璧な定着を目指す。

## ◆到達目標と評価の観点

〔標準〕 予習・復習の学習習慣を確立させる。  
課題を完全に提出させる。

〔応用〕 問題を多角的に見る力と効率的な計算力を身に付け、記述力を向上させる。

〔評価の観点〕 答えだけではなく、論理的に記述ができる力を身に付けているかどうか判定する。

## ◆評価の方法

定期考査・小テスト等の成績、課題の提出状況、および日常の授業に対する意欲・関心等を総合的に評価する。

## ◆年間予定授業時間

予定時数	105時間	1学期 (39時間)	2学期 (42時間)	3学期 (24時間)
------	-------	------------	------------	------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書で予習をする。</li> <li>・4STEP A問題は授業の復習として日常的に解いておく。計算力はそこでつける。</li> <li>・応用力は4STEP B問題・チャートでつける。発展（α）クラスはチャート全問制覇。</li> <li>・平素の学習でA問題を解いておかないと考査前に全問やりきれない。計画性を持って進めること。</li> </ul>
--

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元ごとの時間数	学習の内容	注意すべきこと
1 学期	4	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	10	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係	座標や式を用いて直線や円など平面図形の性質や関係を数学的に表現できるようにする。
	5	第2節 円	10	5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円	
		第3節 軌跡と領域	9	8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	
	6	第5章 指数関数と対数関数	10	1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	
2 学期	8	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	10	1 微分係数 2 導関数	微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。  関数の極限值についても学習する。 4次以上の関数についても学習する。 体積についても学習する。
	9	第2節 導関数の応用	16	3 接線 4 関数の値の変化 5 最大値・最小値 6 関数のグラフと方程式・不等式	
	10	第3節 積分法	16	7 不定積分 8 定積分 9 面積	
	11				
	12				
3 学期	1	第3章 関数（発展的学習）	12	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数	数学IA・IIBの総合演習も行う。
	2	第1章 複素数平面（発展的学習）	12	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理	発展的学習としてαクラスは関数・複素数平面についても学習する。
	3				